

○佐藤秀明・棚橋恵・渡辺勲*・高藤友哉**

Alternaria brassicae によるオオサキナ黒斑病(新称)の発生

Sato,H., Tanahashi,M., Watanabe,S. and Takato,Y.: Occurrence of *Alternaria Leaf Spot* on Ohsakina, a Variety-like Vegetable Belonging to *Brassica rapa*, Caused by *Alternaria brassicae*

2009年3月、新潟県南魚沼市で栽培されていた当地在来固有のアブラナ科野菜のオオサキナ(大崎菜)に斑点性病害が発生した。葉では1~3 mmの明瞭な黒色小斑点が生じ、後に5~20 mmの円~橢円形で灰~褐色の同心輪紋病斑となった。病斑の周囲は黄化した。葉柄、花柄および莢には1 mm程度の不整形で明瞭な黒色小斑点を生じた。病斑からはオリーブ褐色のPDA菌叢を形成する*Alternaria*属菌が高率に分離された。分離菌は素寒天培地上で分生子を単生またはまれに鎖生した。分生子は長棍棒状で片端に長いbeakを持ち、形成された分生子の本体は60~150×8~14 μm(平均102×10 μm)で7~15の横隔壁、0~1の縦隔壁を持ち、beak長は20~68 μm(平均34 μm)であった。以上の結果から、本菌を*Alternaria brassicae*と同定した。分離菌のPDA菌叢片をオオサキナの有傷と無傷の健全葉に貼付接種した結果、いずれの葉でも原病徵が再現され、病斑から接種菌が再分離された。これまでオオサキナで病害発生記録はなく、本病害をオオサキナ黒斑病と称することを提案する。

(新潟農総研園研セ・*新潟農総研中山間農技セ・**新潟南魚沼振興局)

菌類病

分類・同定

大崎菜

Alternaria brassicae

佐藤秀明

hisatou@ari.pref.niigata.jp

200395